

土木学会懸賞論文の審査を終って

土木学会誌編集委員会委員長

樋口 芳 朗

昨年に引続き2課題を選んで論文を募集した。本年は年令制限を撤廃して会員諸兄の声にこたえたが、やはり若い層からの応募がほとんどであった。

集まった10数編の論文に対し、編集委員会から選抜された審査委員が10月23日13時から5時間を費して個々の論文の内容を検討し、結局つぎの論文を選出した。

課題 A. 社会開発と土木技術の役割り

三席 泉 信也君

運輸省大臣官房開発課

三席 明神 証君

京大工学部助手

課題 B. 建設業における技術向上

二席 馬場敬三君 (学会誌登載)

大成建設KK土木本部

三席 佐藤次郎君

東京都第五建設事務所

三席 横山頭二君

神戸市西部埋立工事事務所

審査に当っては、技術論文として適正であり健全なひびきを持っているかどうか、学会誌掲載に適しているかどうか、建設的な提言であり独創的であるかどうかという諸点を一応の規準とした。

審査委員会において述べられた意見の概略を記すと、つぎのとおりである。

① A. 三席 泉 信也君

よく調査しよく分析しているが、後半調子が落ちてきており、開発を進めるためにどういう方法で土木技術を進めてゆくかという点についての主張が平板で、やや迫力にかけている。

② A. 三席 明神 証君

前半の分析は整然となされているが、建設白書を一步出たところが見られず、建設的かつ具体的な提言に欠けるうらみがある。

③ B. 二席 馬場敬三君

よくまとまっており、問題点の指摘も適切である。しかし、文献からの引用の目立つ箇所もあり、いささか迫力に欠ける点のあるのは惜しまれる。

④ B. 三席 佐藤次郎君

提案の一部としての管理表には新味があって有益であると思われるが、本課題にたいする応募論文としてはいささか的はずれの感がある。

⑤ B. 三席 横山頭二君

問題点のとり上げ方は独創的であり前向きであるが、本課題の対象である建設業を取り扱かうまでに至っていない。

A. に一、二席なく、B. に一席のなかった点昨年度より低調のようにも受け取れるが、選にもれた論文の中にも公共土木技術センター設立の提唱、および学生の眼から見た土木技術と社会開発に関連したビジョンなど捨てがたい味を持ったものが見られ、むしろ課題の出しかた(もっと具体的な方がよくないか)や、ウエイト制の設置(学生は別扱いとする)などについて検討する必要があるようにも見受けられた。

いずれにせよ懸賞論文制度は存続することが望ましいということに審査委員の意見は一致したが、編集委員会としては、学会活動の中核である学会誌から土木賞の選ばれる可能性のほとんど絶無である現状を遺憾とし、前委員長在任中からの希望として、学会誌賞ないし読者賞の創設に一段の努力を注ぎたいと思っている。会員諸兄のご批判とご声援をお願いする次第である。

なお、本年度の審査委員は以下のとおりであった。

岩崎敏夫・北田勇輔・堺 幸七・寺尾英二・豊島 修・
樋口芳朗・吉村 恒

最後にご応募頂いた各位に厚くお礼申し上げる次第である。